

町民バス

合併後平成19年度から運行をはじめた町内循環バスは、現在、町内全域を走行する路線と早来地区（周辺農村含む）・追分地区それぞれの地域内を走行する3路線の運行が行なわれています。

利用者は運行開始時と比べるとわずかに増加傾向ではありますが、利便性の向上には、デマンド交通システムなどの新たな「公共交通システム」

への検討も進められていて、費用対効果や他の交通機関との協調など課題整理も進めら



れています。

町内の循環バスの整備には合併特例債が利用されましたが、運行に係る経費はすべて町の負担でまかなわれていません。

町民バスの経費には、町内の団体利用に使用される車輛の運転管理業務を含めると年間2千万円を超える予算が使われています。（車輛の更新経費や維持修繕経費は除きます。）

ハイヤー

町内には追分地区と早来地区でそれぞれの事業者が営業を行なっています。

昨年11月、追分ハイヤーは別の事業者によって営業継続が行なわれていますが利用者の減少で営業継続の厳しさがあり、町では公用車の運転業務委託などで経営存続のため事業者への支援を行なっています。

今回紹介した公共交通機関の存続や維持の問題には、利用者の減少が結果として利用者の利便性を失う要因となっています。

利用者の減少は、マイカーの普及によるものが大きく、公共交通網の維持や整備問題への一番の要因となつていますが、これから更に進むとされる高齢化によって運転ができなくなる者への対策「地域の足の確保」は大きな課題であり使命でもあります。

町が支援や運営を行なう理由には「路線を守る」こと「充実させること」と目的はいろいろありますが、「地域の足の確保」、「安心・安全の確保」や町のセールスポイントにもなっている「アクセスの良さ」を本当に感じることでできる「まちづくり」として進めなければならぬ一つでもあります。

町循環バス利用人員

単位：人（延べ人員）

	町内循環	早来地区	追分地区	計
平成22年4月	912	500	501	1,913
5月	872	419	408	1,699
6月	976	502	303	1,781
7月	979	435	436	1,850
8月	959	453	493	1,905
9月	1,008	473	522	2,003
10月	1,012	490	558	2,060
11月	1,186	389	559	2,134
12月	1,092	397	609	2,098
平成23年1月	1,043	361	531	1,935
2月	1,182	399	573	2,154
3月	1,310	465	480	2,255
22年度計	12,531	5,283	5,973	23,787
21年度計	13,006	5,562	5,583	24,151
20年度計	10,956	6,056	4,908	21,920
19年度計	8,676	6,099	5,669	20,444

地球温暖化防止にも公共交通の利用が推奨されています。

